

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 074	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 モミ殻の給与が乳牛に及ぼす影響（トウモロコシサイレージと混合）	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成28年度貴所で開発した「モミ殻の給与が牛肉生産に及ぼす影響」は地域未利用資源の飼料利用の拡大に大きく寄与するものと考えられる。しかし、その技術の根幹であるモミ殻とトウフ粕と混合し発酵させる事は生産現場においては今のところ一般的なものではない。そこで、酪農の生産現場で多く利用されているトウモロコシサイレージの調製段階でモミ殻を混合発酵させ、トウフ粕と混合した場合と同様な効果が得られるかどうか乳牛で検討していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 モミ殻は嗜好性が悪く、そのまま給与すると飼料摂取量が低下すると思われます。「モミ殻の給与が牛肉生産に及ぼす影響」では、モミ殻とオカラ等を混合して発酵処理したことにより、嗜好性が改善されたものと思われます。 一方、ご提案のトウモロコシサイレージの調製段階でモミ殻を混合することは、作業人員の増加や労働時間が長くなるため、酪農家による作業は難しいと思われます。現状では、モミ殻の利用にはTMRセンターで発酵TMRの調製時に原料の一部としてモミ殻を混合することが考えられますが、そのような利用について情報がないため、他県での事例等情報収集に努めます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			